



第2740地区 創立／1990年9月29日 認証／1990年10月22日

佐世保中央ロータリークラブ週報

会長：池永 隆司 / 副会長：八重野 一洋 / 幹事：宮崎 正典

2020～2021年度クラブスローガン

『和衷協同』

地域のために。そして未来のために。

週報編集 / 公共イメージ・会報委員会：吉野英樹、山口裕之、福田英彦、鶴田明敏
西村浩輝、古川直記、岡田文俊、崎山信幸本日の出席率 66.66%：会員数 49名・出席 23名・欠席 16名・出席規定免除会 7名・ビジター 0名
前々回の出席 32名・出席規定免除会員 6名

会長挨拶 / 池永 隆司君



皆様こんにちは。新型コロナウイルスの感染が、全国的に拡大し、佐世保市でも毎日複数の感染者の方が出ていています。このコロナ禍、ウズコロナで例会を開催する手段として、今回はこのような形式で開催しました。

今年度、残り2ヶ月間色々模索しながら運営していく

たいと思います。

さて18日の日曜日に、国際ロータリー 2740 地区第6グループのIM（インターナシティ・ミーティング）が開催されました。ホストクラブが、佐世保北ロータリークラブで、場所がホテルフラッグス九十九島、広い会場に花島ガバナー・緒方ガバナー補佐をはじめ50名ほど参加で、合わせてWEB配信もされました。

第1部は、「ロータリーとは？」 第2部は「ロータリーを理解し分かち合おう」というテーマでパネルディスカッションをされました。6人のパネラーのかたは、事前にテーマについて準備をされていたのと、パネラーに若いパスト会長が二人いらしたので、レベルの高いディスカッションでした。話しの中で、世界に比べ日本の会員は、女性の比率が極端に低いというお話しがあり、また職業奉仕の考え方方が、RIと日本のロータリーとではギャップがあるという話などもでていました。倉科君は第2部のパネラーでしたが、アーサー・F・シェルドンの「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」の言葉など引用され、職業奉仕の理念について話されていました。

最後にガバナーのお話の中で、次年度のRI会長は、現在の会員数120万人を130万人にする目標を掲げていらっしゃるので、会員増強がメインになるということでした。

本日は福田英彦君の紹介でカモチリナ様に卓話をしていただきます。よろしくお願ひいたします。



幹事報告 / 宮崎 正典君

1. 例会変更・休会

*佐世保北ロータリークラブ

5月10日（月）

*ハウステンボス佐世保ロータリークラブ

4月27日（火）

2. 来信

■ガバナー事務所

- ・アフリカ平和コンサートのご案内
- ・RYLA開催中止のお知らせ

■佐世保北ロータリークラブ

- ・インターナシティ・ミーティング参加のお礼
- ・例会訪問のお願い

■ハウステンボス佐世保ロータリークラブ

- ・第8回佐世保市内8ロータリークラブ
会長・幹事会 延期のご案内



ニコニコボックス

池永 隆司会長・八重野 一洋副会長・宮崎 正典幹事

本日はカモチリナ様ご来訪頂きまして誠にありがとうございます。いよいよ来週からゴールデンウィークがやってきます。昨年の今頃と比べると今年は活動できている状況ですが注意が必要な感じです。だいぶ暖かくなってきてますで少しでも落ち着いてくれると良いですね。ゴールデンウィーク前最後の例会です。本日もどうぞよろしくお願ひいたします。

福田 英彦君

本日の卓話をされるカモチさんのご来訪を歓迎します。現地の人たちに慕われ頼られている彼女の活動はロータリーにも通じるものがあると思います。期待を込めてニコニコします。

本田 実君

今、みなと IC からおりて例会場に向かってました。青果市場の信号で直進と左折の矢印が出ているのに（信号は赤ですが）直前の車が STOP。危うく追突するところでした。もし、事故ったら第1発見者は後ろを走ってた筒井君でした。

宮崎 宗長君

佐世保市塩浜郵便局は大正10年（1921年）の5月6日に開局いたしました。来月の5月6日に100周年を迎えます。2度の新築移転を経て、第5代目局長の時の昭和61年9月に現在の場所へ新築移転いたしました。私が第7代目の郵便局長となります。これからも地域に貢献し、みなさまに信頼してご利用いただける郵便局を目指して社員と共に頑張ってまいります。よろしくお願ひいたします。

本日の合計	6,000 円
本年度の累計	650,000 円

 **本日の卓話**
◆ゲスト卓話◆**カモチ リナ様**

1、イスラム教について
メディアで取り上げられるイスラム教のイメージと実際に現地での風景には雲泥の差があります。
モロッコの人々の暮らしや、ラマダンを通して、イスラム教が実は優しく、慈愛に溢れる宗教であり、それは必ずしも義務的でもなく、自發的にみんなが助け合いながら暮らしていることを表しています。

2、DAR AMAL の活動について

モロッコに支援目的で2年間活動を行ってきましたが、気付けば現地の人たちに助けられることが多く、モノのないモロッコでの生活ではありますが、心が豊かな人たちに囲まれていくうちに、人間にとって大切なものは何なのか、幸せとは何かと考えることが多くなりました。2年のJICAでの契約期間を終えても、私ができる範囲で、必要とされている以上は恩返しのつもりで活動を続けています。現在も、子供たちが夢を描ける社会を目指すために現地の雇用創出を続けています。当初から継続している女性自立支援では、現地の伝統刺繡で小麦粉袋をアップサイクルしながらバックやポーチを作り、商品開発をしています。

また、私の住む街が産地であるキャロブという鉄分

豊富なオーガニックスーパーフードをパウダーにして日本では、障害者支援施設で一つ一つ丁寧に加工していただくオーガニック食品を展開しています。他にも、モロッコでしか取れないスキンケアに素晴らしいアルガンオイルやサボテンオイル、絨毯など、女性たちが丁寧に作っているものも DAR AMAL で販売しております。

ホームページ www.dar-amal.com

インスタグラム @dar50350

3、サステイナブルについて

今、社会現象となっているサステイナブルという言葉は、持続可能なという意味ですが、これは、2013年に国連が世界で達成していきたいと定めた目標で、2030年までに達成したいと話されています。貧困、教育、権利、環境、などの、今世界が抱える問題を解決していく大きな課題です。

これをどうやって私たちが関わり、社会をよくし、私たちの生活や心を豊かにしてくれるのか、そして、子供たちへ未来を渡していくのかということが大切となります。決して大きなことができるわけではありませんが、一人一人ができることが一番、大切であり日々の中で、手を差し伸べること、優しさを無理なく継続していくことが、私たちの周りから、社会が変わり世界が変わっていくのだと思うのです。このコロナ禍で大変な時期ではありますが、だからこそ、行政や国ではなく、一人一人のできる範囲での優しさや声がけが、人一人救えることもあると、私は日々助け合いながら生きるモロッコの人たちに学びました。

最後に私が実際にモロッコの隔離生活で感じたことですが、“今日のあなたの一回の微笑みが、もしかしたら、誰かのたった1つの今日の喜びになるかもしれない。”ということを接する誰とでも心がけることがまず社会を良くする一歩だと思っています。



S A A : 田添直記君
次回例会 / 5月6日 12:30 ~